

取組みの主な進捗状況

生活のDX

「ふくいはぴコイン」で県内消費を喚起

県および一部市町は、物価高対策として、デジタル地域通貨「ふくいはぴコイン」を活用したポイント給付事業やデジタル商品券の販売を実施します。先行して美浜町では、2月に事業者向けの説明会が開催され、2月末から全町民を対象とした商品券の配布が始まりました。「ふくいはぴコイン」で県内経済を活性化していきます。



電子回覧板の利用が拡大

福井市は、1月から市内全域で電子回覧板の本格運用を開始しました。ユーザー登録した住民はアプリから自治会長や市からのお知らせを一元的に確認することができます。

また、大野市では4月から半年間、市内の一部市帯で電子回覧板の実証実験を開始します。

電子回覧板による利便性向上と自治会の負担軽減を図ります。



産業のDX

介護現場でのICT等活用を促進



ICT・介護ロボット等の導入・活用による介護現場の業務改善活動等の促進、介護人材の確保・定着のため、「ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター」による伴走支援の成果報告会が開催されました。支援を受けたモデル介護事業所が発表を行い、ICT等を導入した現場の手応えを語りました。県内の他事業所への横展開を目指していきます。

業務改善アプリを企業が独自開発

業務改善に向け、独自にアプリ等を開発した県内企業の事例共有会が開催されました。

ふくい産業支援センターは昨年9月に専門的なプログラミングが不要なノーコードツールの研修と開発支援を実施。

参加企業の担当者は、外部委託に頼らず自らアプリを構築した過程を発表し、現場の使い勝手に合わせた業務改善の成果を共有しました。



行政のDX

「さかいキッズパーク」で顔認証システムを導入



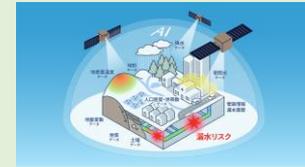
3月20日にオープンした坂井市の全天候型遊戯施設「さかいキッズパーク」において、マイナンバーカードを活用した顔認証システムが導入されました。無料で施設を利用できる坂井市民が対象で、事前にマイナンバーカードを使って専用アプリでの顔認証登録を行うことで、施設へのスムーズな入場が可能になります。

人工衛星とAIを活用した水道管診断

鯖江市は県内で初めて、人工衛星やAIを活用した水道管の劣化診断を令和8年度から開始します。

人工衛星から得られる地表面温度や地殻変動などのデータと、市が保有する水道管の管路情報や土壌情報を組み合わせ、漏水の可能性が高い場所をAIが分析します。

人工衛星とAIの活用により調査期間の短縮や費用の削減を図ります。



最近の県内の動き

デジタル女子部 ドローン体験会を開催

デジタル女子部ひよこ隊主催のドローン体験会が県庁で開催されました。

体験会では、ドローン活用ディレクターの朝井氏からドローンを活用したDXの最新事例について講演いただいたほか、事前に簡単なプログラムを作成し、そのプログラムに従ってドローンが自動で動く操作なども体験しました。

近年、ドローンは災害対応やインフラ点検、農業など、様々な分野で活用が広がっています。

今後も県内での実証や研修の充実を図りながら、ドローンの活用を一層推進していきます。



「福井空襲被害に関するデジタルアーカイブ」が受賞！

地理空間情報の活用推進と人材育成を目的に国土地理院が開催した「Geoアクティビティコンテスト」で、福井県立大生らの「福井空襲被害に関するデジタルアーカイブ」が地域貢献賞に選ばれました。

1978年発刊の「福井空襲史」の犠牲者名簿をもとに被害状況を可視化したデジタル地図を作成し、記憶継承に取り組んだ点が評価されました。

今後は戦災慰霊碑や遺品の3Dモデル化などを進めていきたいとしています。



男性育休VRコンテンツを公開

県は、育休中の過ごし方を仮想現実(VR)で体験できるコンテンツをこども未来課ホームページで公開しています。

昨年度、県内企業の男性育休取得率は過去最高を更新した一方で、「育休を取得した男性からは、育休取得前に不安を感じた」という声が多くありました。

VRでは、実写の家の中で夫婦が会話する形式で、料理や入浴など場面ごとの家事・育児のコツや、県の支援制度などを紹介しています。

VRを通して育休中を楽しく過ごす心構えを学んでもらい、不安解消につなげていきます。

